岡田遺跡 8・9 住居址と 1 号土壙釣手土器

2017.11.8 作成
2018.8.29 訂正

1.岡田遺跡から出土した釣手土器

岡田遺跡の出土品の中から、新たに 2 個、釣手土器と判断されました。これにより、計 5 個の釣手土器の存在が確認されました(表 1)。

表 1-岡田遺跡出土の釣手土器

項番	集落	住居番号	釣手土器制作時期	釣手土器
1	a b	116(*1) (a 集落の南東寄り、またはｂ集落の南西端)	Ⅰ期 {藤内(勝坂Ⅱ)式期～曽利Ⅰ式期}	
2		8･9(*2)	Ⅱ期 {加曽利ＥⅡ式}	
3		6(*2) (集落中央よりやや南東寄り)	Ⅲ期 (曽利Ⅲ式期以降)	
4		1 号土壙(*2) (4 号住居址に接し南東) (1 号土壙の上に 4 号住が建てられたと推定)	Ⅱ期 {加曽利ＥⅡ式}	
5			Ⅰ期 {勝坂Ⅱ式}	
6	c	212(*1) (集落の西端)	Ⅱ期 (曽利Ⅱ式期)	

*1: 神奈川県高座郡寒川町　岡田遺跡発掘調査報告書 県営岡田団地内遺跡発掘調査団 1993.3.31

*2: 「高座郡・寒川町　岡田遺跡　発掘調査報告書」寒川町岡田遺跡発掘調査団　1999 年 11 月

2.追加された釣手土器について

2.1　1 号土壙釣手土器の検討

(1)1 つか 2 つか

表 1 項 4 と項 5 は一つの釣手土器ではないか、という説があります。図 1 はその復元図です。

(寒川町文化財学習センター企画展 2017.11.4～2018.3.31「さむかわの縄文時代」より)
図 1-1 号土壙釣手土器復元図

一つの釣手土器だとしたら、制作年代は同じになります。勝坂Ⅱ式か加曽利 EⅡ式か、判断の分れるところです。

(2) 1 号土壙釣手土器の類似品
部分的に比較すれば、表 1 項 1 の 116 住居址の釣手土器に似ている部分もありますが、円文の数、円文の連続性など、基本的な構成が違うため、他の遺跡から出土した釣手土器との類似性を検討します。
類似性の基本項目として「3 つ窓」「側面に 5 個前後の円文を配している」を上げました。これに該当するのが図 2～4 です。

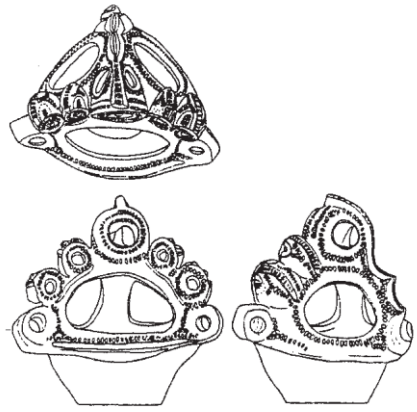

図 2-山梨県西桂町宮の前遺跡

図 3-長野県諏訪郡富士見町曽利遺跡

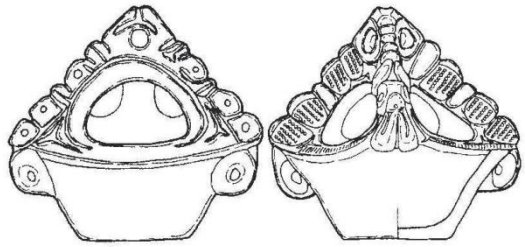

図 4-南佐久郡川上村大深山(おおみやま)遺跡

図 2～4 に共通していて、1 号土壙釣手土器に無い特徴があります。それは、図 2～4 は円文の裏が猪または蛇であるのに対し、1 号土壙釣手土器は両面とも円文であることです。

(3)造形の変化

時代が下がる程抽象化が進み、両面が円文になる傾向があります(*3)。神奈川県内でも小田原市久野一本松遺跡から出土した釣手土器は、図 5-1,5-2 に示す通り、片面(裏面)は円文ですが、反面は猪と思われる装飾が施されています。

(*3:山梨県埋蔵文化財センター研究紀要 vol.23 2007.3 p5)

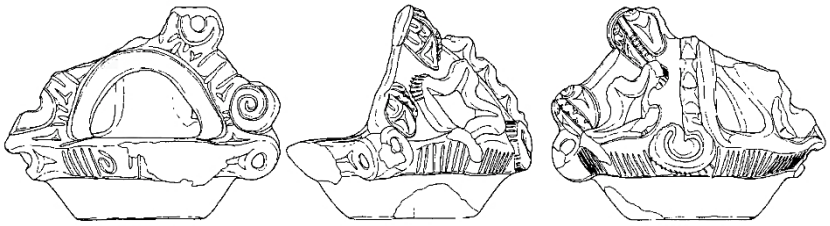

図 5-1 小田原市久野一本松遺跡

図 5-2 小田原市久野一本松遺跡

同時期の釣手土器が伊勢原市御伊勢森遺跡からも出土しています(図 6)。こちらは両面とも円文です。

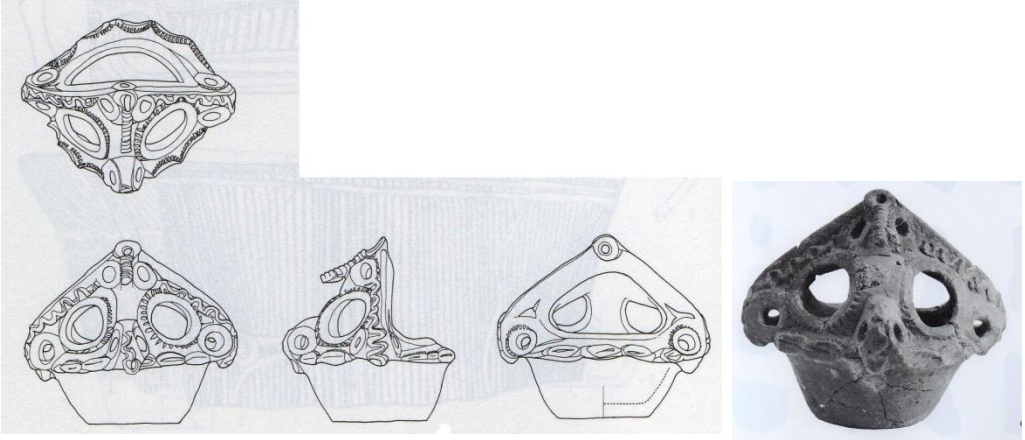

図 6-伊勢原市御伊勢森遺跡

また、裏面の猪が無くなっても御伊勢森遺跡や 1 号土壙の円文は周りにギザギザを留めています(図 6,7)。但し、1 号土壙のギザギザは円文以外にもあり、猪の抽象化ではなく、単なるデザインの可能性もあります。

図 7-1 号土壙の円文

図 7-a 富士眉月弧文化圏

円文の変遷だけで判断することはできませんが、円文３つの場合は、作り方が「小田原→伊勢原→寒川岡田(116 住居址)」と伝わったように見えます。

表 2- ３つ窓釣手土器の造形の変化

		円文のデザイン		
			両面円文	
		裏面が動物	ギザギザあり	ギザギザなし
円文の数	３	小田原市 久野一本松遺跡 →	伊勢原市 御伊勢森遺跡 →	岡田遺跡 116 住居址
	４以上	・山梨県西桂町 宮の前遺跡 ・長野県諏訪郡 富士見町曽利遺跡 ・南佐久郡川上村 大深山(おおみやま)遺跡 →	岡田遺跡１号土壙 →	↑

長野県→山梨県→神奈川県西部と釣手土器の文化が伝わったとしたら、富士眉月弧文化圏内の伝搬だったと考えられます。(図 7-a)

2.2　8・9 住居址釣手土器

表 1 項 2 の 8・9 住居址釣手土器の復元図が図 8 です。

(寒川町文化財学習センター企画展 2017.11.4～2018.3.31「さむかわの縄文時代」より)

図 8-8・9 住居址釣手土器復元図

8・9 住居址釣手土器は、表 1 項 3(6 住居址)の釣手土器と類似点があります。

(1)粘土の色

両方とも灰白色です。(岡田遺跡出土釣手土器の内、他の 3 個は茶色です。)

(2)釣手

8・9 住居址釣手土器は側面に小さい釣手が付いています(図 9)。6 住居址の釣手土器も把手内側に 4 個(片側 2 個)の小さい釣手様のものがついています(図 10)。但し、土器の重さを考えると、この釣手でつるしたとは考え難いです。

(下から見た写真)　　(上から見た写真)

図 9-8・9 住居址釣手土器　　図 10-6 住居址釣手土器

(3)模様

釣り針風の線が描かれています。(図 11,12)

図 11-8・9 住居址釣手土器　　図 12-6 住居址釣手土器

[図出典]（下記以外は著者の撮影である。）

図 2:山梨県埋蔵文化財センター研究紀要 vol.23 2007 p6

図 3:神話とか、古代史とか。(http://calbalacrab.hatenablog.com/entry/2017/01/31/154300#f-5a5c5097)

図 4:顔面把手と釣手土器」中村耕作　考古論叢　神奈河　第 17 集　2009.3

図 5-1:図 4 に同じ

図 6:神奈川県伊勢原市　御伊勢森遺跡（傳上杉定正館址）の調査　1979 産業能率大学

図 7-a:「信州の縄文時代が実はすごかったという本」2017.3.1 藤森英二 p21